



広報

なま

市民の友

第618号 毎月1回発行

2002年(平成14年)

7月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(協)丸正印刷

市の人口と世帯	
*()内はうち外国人	
2002(平成14)年5月末現在	
総人口	306,352(1,720)
男	148,207(879)
女	158,145(841)
世帯数	118,786(973)
住民基本台帳人口の内訳(外国人を除く)	
本 庁	85,746
真和志	105,983
首 里	58,474
小 禄	54,429



はじける歓声にオオゴマダラ舞う

主な紙面

- (2面) ごみ減量13.4%に
- (3面) 石川文洋写真展
- (4面・5面) 夏休みお楽しみJOHO
- (6面) 「FMなは」で市政情報
- (7面) 情報PACK

「森の家みんな」誕生
ガジマルの上に木ぎれで家をつくり、バツタを追いかけたりと自然で遊ぶこといろいろな知恵を得た、あのウーマークたち。
子どもの頃から自然に親しみ、自然を大切にする心をもつことは環境保全への第一歩かもしれない。
自然と子どもがふれあうステーション、那覇市立「森の家みんな」が誕生した。末吉公園の自然を活かし、子どもたちが自然体験・社会体験をするための施設で、宿泊設備もある。
6月1日に行われた開所式は高校生二人の司会進行や、手作りの横幕、施設紹介の紙芝居などアットホームな雰囲気が感じられた。
地域の子どもたちによる吹奏楽の演奏と子ども獅子舞の幕開けの後、いよいよ、くす球割り。翁長市長をはじめ、各関係者、子どもたちが一斉にひもを引く。パツと割れるくす玉。中から日本最大級の蝶、オオゴマダラ20匹がストームのような白い群舞を見せた。やがて、子どもたちのはじけるような笑顔と歓声の中を樂しげにゆったり飛び交いながら、再会を約して森の住人となっていく。
オオゴマダラのさなきの色は金箔で包んだような眩い「ゴールド」。
旺盛な好奇心で森を駆けめぐり、自然の不思議にめぐり合った瞬間、子どもたちの瞳もまた、それに負けないくらい輝きを放つ。
そして、さなきたちは「みんな」で育まれ、いつの日か大きな羽をひろげていくのだらう。



同窓会をお知らせする大きな横断幕にはビックリ。これにも「あつき」を感じますね。

支店の視点⑤

ふくだよういち
福田陽一

(ソニー生命保険株式会社 那覇支社長)

1964年(昭和39年)鹿児島県指宿市に生まれ、熊本県で育つ。
1994年にソニー生命熊本支社に入社。鹿児島支社、那覇支社開設に携わる。
1998年4月、那覇支社開設に伴い、那覇支社長に就任。社員は地元の人材を採用。生命保険の担う社会的役割の実現に向け、自社ならではの観点でコンサルティング。「県民生活に安心を築くお手伝い」と日々奮闘中。

暑い、熱い、厚い、篤い。この「あつい」という表現が、土地、お人柄、また沖縄に存在する全てに良く似合います。というより、この「あつい」という言葉、沖縄のためにあるように思われてなりません。
私は沖縄のことを何ひとつ知らずに赴任してしまいました。それこそ、毎日の天気予報で九州の上にカッコ書きされている印象で、前任地の鹿児島県から海を隔てて600キロ以上も離れた位置にあることも知りませんでした。
その私が、この島に降り立った瞬間の第一印象が、全てが「あつい」ものばかりでした。初めての冬の気温もそうでしたし、空港から乗ったタクシーの運転手、各店の店主、そしていま、私がパートナーとして心から誇りに思うみなさん、それを支えていただけてお世話のお客様。お会いさせていただいた皆様の全てが「あつい」方々ばかりでした。
ことは、復帰30周年です。戦

火に燃え尽くされた年からは、58年の歳月が経過しました。あの時を知らない私は、不幸ながらも、さぞ「熱かったらう」と思うことしかできません。
ですから、こんどは私たち「知らない世代」が、平和にたいする「あつきこころ」を育むこと。つまり「6月23日」の悲しい歴史を繰り返さないという気持ちで、全国民がこころをひとつにすること。さらには、これは沖縄だけの問題ではなく、ウチナンチュだけが、「あつき」取り組んでも達成できないことを、全国に向けて発信しなければならぬと思います。
残念ながら、長崎、広島の日に黙祷を捧げる方は多いけれど、6月23日はどうでしょう。
私もこれからあらゆる場面で沖縄に触れて、「あつい」人間になります。私も若い世代の方々には、今をつくっていただいた先輩たちに感謝し、次世代に繋げていく、「あつき」こころを大切にしたいと思っています。

「水」ピンチ！水不足が続いています。ひきつづき、節水にご協力をお願いします。